



TITLE:

京大広報 No. 416

AUTHOR(S):

京都大学広報委員会

CITATION:

京都大学広報委員会. 京大広報 No. 416. 京大広報 1991, 416: 163-170

ISSUE DATE:

1991-10-16

URL:

<http://hdl.handle.net/2433/209248>

RIGHT:

ファイル中には未許諾による非表示部あり.

京大広報

No. 416

京都大学広報委員会



中国雲南省の西北、麗江一帯に住む^{ナシ}納西族は、独特の象形文字を伝えている。伝説では、舞踏は金色の殿様蛙から教ったという。象形文字で書き表わすと、この形になる。

— 関連記事本文167ページ —

目次

<大学の動き>

トロント大学との学術交流

— 西島総長、カナダ訪問 — 164

<部局の動き>

木質科学研究所改組記念行事 164

<紹介>

農学研究科熱帯農学専攻 165

日誌 166

附属図書館「平成3年度秋期展示会

「東アジアの文字と文献」の開催 167

<資料>

平成2年度歳入・歳出決算額及び

予備的経費配分実績 168

<随想>

学生との新しい出会い

名誉教授 室伏 靖子 169

<コラム>

数の子、クラゲ、黒作り

農学部教授 岩井 保 170

写真集企画委員会からのお願い 170

＜大学の動き＞

トロント大学との学術交流

—西島総長、カナダ訪問—

西島安則総長は、9月14日から、カナダ国における高等教育・研究機関の実情調査及び大学間学術交流に関する打合せのため同国トロント大学及びマクマスター大学を訪れ、予定どおり9月19日帰国した。

トロント大学では、プリチャード (J. Robert S. Prichard) 学長はじめ関係教官と懇談し、高等教育、学術研究の実情、今後の展望、学術交流の在り方などに関して意見交換を行うとともに、本学とトロント大学との「学術交流に関する一般的覚書」が、9月16日に交換された。

トロント大学との「覚書」交換にいたる経緯は、平成3年2月、トロント大学プリチャード学長の本学訪問の際に、本学との友好関係を進展させるための学術交流の推進について話し合いがあり、同年3月に同大学長から書簡により提案があったもので、本学では、国際交流委員会において検討を重ねるとともに同大学と協議を続け、今回の西島総長の訪問で「覚書」が調印されたものである。

また、西島総長は、マクマスター大学を訪れ、ケニー・ウォーレス (G. Kenney-Wallace) 学長はじめ関係教官と意見交換を行った。

併せて、このトロント訪問の機会に在トロント京都大学出身者で構成される「トロント洛友会」の諸氏と懇談した。今回の訪問には、川又良也国際交流委員会委員長 (法学部教授)、高石道明庶務部長が同行した。

トロント大学の概要は、以下のとおりである。

創立：1827年 教員数：6,200

学生数：54,000

14学部 (教養、医学、応用科学・工学、林学、歯学、薬学、法学、音楽、教育学、ソーシャルワーク、建築・建築環境学、看護学、図書館・情報科学、経営学)

—The world of learning 1991 より—



トロント大学プリチャード学長と懇談する
西島総長と川又国際交流委員会委員長

＜部局の動き＞

木質科学研究所改組記念行事

本年4月12日付けで、木材研究所は改組し、名称を木質科学研究所と変更して、新組織を発足する運びとなった (改組の内容については京大広報 No.411 参照)。この新しい研究所の門出を記念し、9月26日 (木)～28日 (土) に、改組記念行事が開催された。

26日と28日には、研究所が公開され、研究成果をまとめたパネルや試作品などの展示、研究に関連したビデオの放映、実験室や施設における装置、研究内容の説明、実演などが行われた。大学、業界を初め、一般の多くの方々の来訪があった。27日 (金) には、平安会館において、記念講演会 (10時～14時30分)、記念式典 (15時～16時) 並びに記念祝賀会 (16時30分～18時) が開催された。



記念講演会では、研究所の現在の研究の一端を紹介し、今後の展望と研究所の存在意義を理解していただくため、「木質の時代：新しい扉を開く」と題して、以下の各部門を代表した3人の講演と、特別講演が行われ、220名を越える聴講者があり盛会であった。

挨拶（木質の時代）

木質科学研究所 所 長 佐々木 光
ウッドバイオサイエンスの新展開

木質生命科学部門 教 授 島田 幹夫
木質バイオマス利用の技術革新をめざして

木質バイオマス部門 教 授 桑原 正章
木質新素材の開発をめざして

木質材料機能部門 助教授 川井 秀一
特別講演 地球環境と森林文化

名古屋大学農学部 教 授 只木 良也

記念式典では、約200名の関係者の列席のもとに、まず、スライドの映像による、改組に至る経過、改組後の研究所組織、研究の理念、各部門・分野の研究内容の紹介がなされた後、所長の挨拶、西島安則総長の祝辞、続いて文部省大臣官房審議官山田勝兵氏及び本学大学院農学研究科長久馬一剛教授の来賓祝辞が述べられ、最後に世界各国から送られた祝電が披露された。

記念祝賀会では、全国各地からの約200名の関係者参加のもとに、所長の挨拶、来賓の全国研究所長会議第2部会会長鬼頭 誠本学食糧科学研究所長、大建工業（株）社長斉藤義則氏、朝日ウッドテック（株）会長海堀寅一氏による祝辞が述べられ、元木材研究所教授満久崇磨本学名誉教授の発声で乾杯が行われた後、なごやかな歓談に入り、最後に改組案作成時の所長であった樋口隆昌本学名誉教授による回顧を交えた祝辞が述べられた。

（木質科学研究所）



<紹介>

農学研究科熱帯農学専攻

熱帯地域における環境の保全・資源の適正利用という社会的要請に応え、熱帯農学の新しい学問的展開を期待して、農学研究科に熱帯農学専攻が独立専攻として昭和56年4月に設立され、設立10周年を迎えた。10周年を記念して、以下のような記念事業を推進中である。

- 1) 熱帯農学専攻紹介冊子「熱帯農学専攻10年の歩み」の作成
- 2) 記念出版物「熱帯農学概論」の出版
- 3) 新研究誌「熱帯農学研究」創刊号の発刊
- 4) 記念シンポジウム「熱帯農学の展望」の開催
- 5) 記念祝賀会の開催

10周年記念シンポジウムは、「熱帯農学の展望」をテーマに平成3年6月21日に開催され、専攻10年の成果の一端を報告することができた。渡部忠世本学名誉教授（前熱帯農学専攻教授）の「熱帯農学の回顧と展望」を皮切りに、4報告があり、学際性の高い、しかも専門的な総合討論が行われた。

10年という極めて短い歳月の間に、教授9（うち協力講座4）名、助教授・講師7（うち協力講座2）名、助手2名という教員構成で、発足以来修士課程修了者64名（うち外国人12名）、博士後期課程研究指導認定者34名（うち外国人15名）という優秀な人材を輩出してきた研究・教育体制が出来上がったことは意義深い。

現在の熱帯農学専攻は発足当初の7講座から1講座増設され、現在5基幹講座（熱帯農学、水産



熱帯農学専攻設立10周年記念シンポジウムで講演する渡部忠世本学名誉教授

資源学、国際林業論、畜産資源学、地域計画論）と3協力講座（熱帯稲作論、熱帯地文環境論、熱帯水文環境論（昭和59年増設））の合計8講座から成る。カリキュラムには、専門分野別講義・実験・演習の他に、留学生室教官及び非常勤講師の援助を得て、熱帯農業論、国際農業開発論、熱帯地域特論、熱帯農学特別講義等国際的視野からの科目が用意されている。また、外国人留学生が多い関係から、多くの講義、学生指導は英語で行われており、イングリッシュセミナー等も開かれて、国際性への対応がとられている。毎年行われる新入生歓迎会、修士課程修了生送別会などは、英語・母国語がとびかう極めて国際性豊かな会合である。

熱帯農学専攻の建物は、発足当時、狭い研究室・講義室で苦勞してきたが、昭和59年8月に、熱帯農学棟が農学部総合館東棟の一部として建てられ、その後平成元年3月に生物細胞生産制御実験棟の建設に伴い、研究室等が拡張された。しかし、それでも狭く、現在なお、事務室、セミナー室等は旧演習林本館（京都大学保存建物）にある。

熱帯農学専攻の研究・教育上の苦勞は、十分な海外研究費や学生の海外研究派遣費が保証されていないことにある。そのため、まず教官が海外における研究助成を受けて、様々な共同研究プロジェクトを組み、或いは JICA（国際協力事業団）の研究プロジェクトに参加するなどして、教官の熱帯地域における農学研究が精力的に展開されてきた。

学生の海外研究は、主として、こうした教官研究プロジェクトへ参加する形で展開してきた。このように、多くの学際的共同研究プロジェクトが実施出来ている背景には、多くの熱帯農学専攻生が、若い研究パワーをもって、これらの研究に積極的に参加したことによるところが多い。海外農家への住み込み共同研究、村人相手の農村開発研究、外国大学の教官（研究指導委託）のもとでの研究等様々である。いずれにしても、熱帯農学専攻生は、大学を卒業して早々、海外の現地研究、外国人研究者との共同研究、講座の壁を越えた学際的研究に直面し、それぞれに貴重な体験をもつことになってきている。こうした学際性・国際性・総合性に富む研究を若いときから体験出来

る研究環境は熱帯農学ならではのことで自負している。

かくて、熱帯農学専攻は、10年にして、新しい学際的、国際的、総合的農学教育の研究の場を作り上げつつあり、今後、益々発展していくことが期待されている。

（農学部）



熱帯農学専攻の事務室、セミナー室
（旧農学部附属演習林本館）

日 誌

（1991年9月1日～9月30日）

- 9月3日 平成3年度京都大学職員研修語学研修（英語中級コース）第一日（平成3年12月13日まで 毎週火・金曜日 総60時間）
- 9日 同和問題委員会
 - 〳 香港科技大学 呉 家璋副学長来学、関係教官と懇談
- 11日 国際交流委員会
- 12日 中華人民共和国 海南大学 尹 雙増 校長他3名来学、総長と懇談
- 14日～19日
 - 総長、カナダ国における高等教育・研究機関の実情調査及び大学間学術交流に関する打合せのためカナダ国を訪問
- 27日 防火委員会
- 30日 学位授与式
 - 〳 アメリカ合衆国カリフォルニア大学サンディエゴ校 Richard C. Atkinson 学長他1名来学、総長と懇談
 - 〳 ユネスコ国際教育計画研究所 Jacques Hallak 所長他2名来学、総長と懇談

附属図書館 平成3年度秋期展示会

「東アジアの文字と文献」の開催

併設展 最近の貴重書

本館ではこれまで、館内及び学内所蔵資料の紹介を兼ねて、毎年各種の展示会を開催してまいりました。今回平成3年度秋には、「東アジアの文字と文献」と題して、附属図書館、文学部、人文科学研究所、東南アジア研究センターがそれぞれ所蔵する各種文字による貴重な文献と資料とを展示いたします。また併設展としましては、今回鈴鹿家から本館に寄贈の運びとなった『今昔物語集』（鈴鹿本）をはじめとし、ここ数年の間に本館が収集し、貴重書に指定された文献資料をいくつか紹介いたします。

展示会の構成は、東アジアにおける「象形文字の流れ」を中心に置き、その周辺文字を含めて、次の6つのブロックを定め、それぞれの地域分布と時代変遷及び現代の状況の各面から全体の流れを捉えられるようになっております。

【北方表音文字】

シリア：ソグド：突厥
ウイグル：蒙古：満州
錫伯（シーボー）

【漢字】

甲骨→金文
→篆書→隸書

【疑似漢字】

契丹：西夏：女真
チュノム：チュアン

【中部表音文字】

チベット

【南方表音文字】

ビルマ
タイ

【巴蜀文字】

納西（モソ）
ジャパ
彝（ロロ）

これを機会に「文字」への関心をより一層お持ちいただければ幸いです。

記

期 間： 平成3年11月14日（木）～11月22日（金）
（日曜日11月17日は休館）
時 間： 午前9時30分～午後4時30分
会 場： 京都大学附属図書館展示ホール（3F）
（備 考） 入場無料

（附属図書館）

<資 料>

平成 2 年度歳入・歳出決算額及び予備の経費配分実績

平成 2 年度歳入・歳出決算額及び対前年度比較調

(文部省所管国立学校特別会計)

区 分	平成 2 年度決算額	平成元年度決算額	差引増△減額	増△減率
歳 入	円	円	円	%
附 属 病 院 収 入	15,024,675,486	14,660,005,706	364,669,780	2.49
授 業 料 及 入 学 検 定 料	6,314,784,340	5,648,429,340	666,355,000	11.80
学 校 財 産 処 分 収 入	0	0	0	0
雑 収 入	3,653,642,997	3,309,244,880	344,398,117	10.41
合 計	24,993,102,823	23,617,679,926	1,375,422,897	5.82
歳 出				
国 立 学 校	43,363,079,939	41,505,305,749	1,857,774,190	4.48
人 件 費	28,563,043,757	27,244,726,525	1,318,317,232	4.84
物 件 費	14,800,036,182	14,260,579,224	539,456,958	3.78
大 学 附 属 病 院	18,116,863,042	17,627,219,143	489,643,899	2.78
人 件 費	7,608,896,984	7,167,938,524	440,958,460	6.15
物 件 費	10,507,966,058	10,459,280,619	48,685,439	0.47
研 究 所	12,216,690,181	11,200,961,345	1,015,728,836	9.07
人 件 費	7,494,320,374	6,809,142,944	685,177,430	10.06
物 件 費	4,722,369,807	4,391,818,401	330,551,406	7.53
施 設 整 備 費	7,014,133,000	4,503,063,000	2,511,070,000	55.76
合 計	80,710,766,162	74,836,549,237	5,874,216,925	7.85
人 件 費	43,666,261,115	41,221,807,993	2,444,453,122	5.93
物 件 費	37,044,505,047	33,614,741,244	3,429,763,803	10.20

備考：平成 2 年度 $\frac{\text{歳入}}{\text{歳出}}=0.3097$ ，平成元年度 $\frac{\text{歳入}}{\text{歳出}}=0.3156$

平成 2 年度予備の経費配分実績

(職員旅費)

区 分	金 額	区 分	金 額
1. 予 算 額	31,808千円	(2) 特 別 事 業 旅 費	9,732千円
2. 部局長会議決定による配分額	31,808	(3) 入 学 試 験 経 費	1,766
(1) 会 議 出 席 旅 費	329	(4) 各 部 局 へ の 補 足	19,981

(校 費)

区 分	金 額	区 分	金 額
1. 予 算 額	367,083千円	課 外 活 動 費	881千円
2. 部局長会議決定による配分額	367,083	学 生 懇 話 室 紀 要 刊 行 費	500
(1) 継 年 的 補 足 経 費	38,470	厚 生 補 導 設 備 整 備	3,800
(2) 教 育 研 究 経 費	82,085	(4) 入 学 試 験 経 費	23,059
教育研究用図書整備	2,425	(5) 本 部 運 営 費	35,226
教育研究用設備費	45,400	(6) 管 理 運 営 費	175,762
教育研究用事業費	34,260	庁 舎 等 管 理 運 営 費	28,145
(3) 厚 生 補 導 費	12,481	施 設 等 整 備	147,617
学 生 寮 整 備	7,300		

